



「あにわにわ」とは、ニュージーランドのマオリ語で虹を意味しています。

2009.7.20

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション発行

代表理事：大日向 雅美・新澤 誠治

子育てひろば「あい・ぽーと」

住所：107-0062 東京都港区南青山 2-25-1
電話：03-5786-3250 FAX:03-5786-3256
E-mail: info@ai-port.jp
URL: <http://www.ai-port.jp>

全国版子育て・家族支援者養成講座事務局

住所：〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509
電話：03-6657-8539 FAX:03-3499-8539
E-mail: station@ai-port.jp
URL: <http://www.ai-port.jp>

法人代表理事

恵泉女学園大学大学院教授

大日向 雅美

新年度が始まって早や四ヶ月が経過しました。この間、港区・千代田区・浦安市・高浜市において、子育て・家族支援者養成講座が順調に開催されました。これもひとえに、各自自治体の首長はじめご担当部署の皆様のご尽力の賜物と、心から感謝申し上げます。

二〇〇七年末に策定された「子どもと家族を応援する日本」重点戦略を政策の柱として、今日本社会の子育て支援は地域の育児力の向上の重要性が着目されています。地域の育児力とは、支援者となる方々の力に他なりません。

とは言い、現代のような時代に、誰かのために尽くそうとして下さる方がどれだけいるのか。本講座を開始する時にも実はその点が一番懸念されました。しかし、いざ開始してみると、各地で次々と手を挙げ、参加を下さる方々の素晴らしい出会いに恵まれております。これはもう現代の奇跡と言っても良いと、私は感謝と共に大きな感慨を覚えております。本号では支援者の方々のお声をいただいております。皆様のご活躍を心からお祈りしております。

新任のご挨拶

港区立子ども家庭支援センター 所長 保志 幸子

こんにちは、子ども家庭支援センターの所長の保志幸子です。支援者の皆さんには「日ごろから様々な機会にお世話になり本当に感謝しています。」

私は長く児童館の指導員でしたが、数え切れないほど大勢の家族と二十七年一緒に過ごしてきて、たくさんの方の失敗から次に次の二つのことを学びました。ご挨拶がわりにお伝えしたいと思えます。

ひとつは「人生はその人のものである」ということです。子どもが何をしたいのかよくわからないとか、なかなか自分の道を見つけれないとか、いろいろな悩みをききました。でもこればかりは本人にしか決められません。親や周りの指導者はいろいろな機会を与え、後は、がまんして「待つ」だけです。いつか本人がこれだというものを選ぶ時が必ず来ます。効率や経済効果や困難性を大人は先に計算してしまいがちですが、そのことにさえ本人が気づくことを待ちましよう。それは支援

する対象の保護者・家庭についても同じです。人生は、その人自身が瞬間ごとを選びとるものが積み重なって続いていくものなのです。

もうひとつは、「支援・援助の持つ魔力に引き込まれない」ということです。人に喜ばれたり感謝されたりすることには、とつもない魔力があります。自分で自分を動かしさせ、特別な力があり人をコントロールできるといふ錯覚をふりまくのです。ひとつめのことに間違えませんが、親身になるといつともコントロールするということの違いを謙虚に心にとめておく必要があります。

さて、支援者の皆さんの温かい姿はたくさんの方の保護者を励ましています。自分の子育てにプラスになったというだけでなく、先輩として少し先を歩いている皆さんの姿そのものが勇気を与えてくれます。どうぞますます輝いて、無理のない活動を長く続けてください。今後ともよろしくお願ひします。

千代田区子ども教育部
児童・家庭支援センター子育て支援係長 亀割 岳彦

今年度より、子ども教育部児童・家庭支援センター子育て支援係長に就任いたしました亀割岳彦と申します。

千代田区は、平成十七年度から二十一年度の五年間を子育て支援の重点期間と位置付けて、各年度の特別区民税歳入見込み額の概ね1%程度を子育ての新規・拡充施策に要する経費に充てることを定めた条例を制定しています。

また、子育て世帯を広くサポートするために、妊娠五か月から高校三年生までの間、児童手当（国制度）に加え、所得制限を設けずに支給する「次世代育成手当」を創設しています。

自治体の予算は、少子高齢化に伴い、高齢者福祉施策に偏りがちな現状にあります。千代田区では、このように子育て施策予算にも大きく重点を置いています。

核家族が進むなど、地域社会における子育て支援の力が弱まりつつある中、今こそ次代を担う子どもたちのための子育て支援策を考えていかなければなりません。

「千代田子育てサポート事業」は、単なる一時預かり保育事業にとどまりません。

保育する側の支援者の養成やサービスマスターとしてのコーディネート後は、互いの打ち合わせにより保育を実施するという、まさに地域の子育て力の底上げを図っているところが他に例を見ない、優れた施策だと思えます。

近い将来、この保育サービスマスターを利用した方が、自分の子育てが終わり、今度は支援者側となって子育てを支援していくという循環が確立され、子どもと親の育ちを地域全体で暖かく支えるまちとなっていくことを期待しています。

浦安市子ども部 子育て家庭課子育て係 佐々木 一嘉

子育て家族支援者養成講座二級修了生が運営をはじめた子育てサロンに伺った時、どう接したらよいかかわからず、おもちゃでひとり遊びをしていた入居五年目の佐々木です。四月より着任いたしました。最近では時間を見つけて支援者が活動している託児室に通っています。まだまだ未熟ものですが、皆さんのお力になれるよう努力しますのでよろしくお願ひします。

さて、浦安市は養成講座を実施して四年目となりました。人口構成の約20%を子どもが占め、子育て世代の転入が多い本市では、地域の子育て力の向上が重要な課題になっています。この度（七月十三日）三級第四期の講座を終了し、認定者は延べ一六〇を越える人数になり、これも約二〇〇人に一人の割合の支援者を輩出したこととなります。（人口十六万二千九百四十四人〇〜一八歳未満三万九百人 平成二十一年四月一日現在）

他の自治体では地域の子育て力の向上の必要性は分かっているにもかかわらず、どう育てていくか悩んでいると聞いていますが、本市ではこれだけの方々が支援者として養成されています。今後の活躍に期待するところです。

地域の子育て力向上のためには支援者側も「繋がり」を大切にする必要があります。バックアップ研修は、講座を通じた「繋がり」を身近に感じる機会となる心強いものだと思います。私ども事務局も皆様との「繋がり」を大切にしていきたいと考えています。

【総会報告】

二〇〇九年六月九日(火)に二〇〇九(平成二十一)年度第一回理事会と通常総会が行われました。

理事会は、理事 監事十四名中書面表決者三名を含む十三名出席のもと、子育てひろば「あい・ぽー」と二階交流サロンにて午後五時〜午後六時まで開催されました。午後六時より二階多目的ホールに場所を移し、正会員十九名(書面表決者三名含む)出席のもと通常総会が開かれ、終了後には、和気藹々とした雰囲気の中、懇親会が続きました。

理事会、総会とも議長は新澤誠治代表理事が選任されました。議題は第一号議案二〇〇八(平成二十)年度事業報告、第二号議案二〇〇八(平成二十)年度決算報告、第三号議案二〇〇九(平成二十一)年度事業計画(案)、第四号議案二〇〇九(平成二十一)年度予算(案)で、全議案満場一致で承認されました。第一号議案では、大日向雅美代表理事より一昨年度からの継続事業の目標達成状況、新規事業である高浜市養成講座、内閣府「子どもと家族を応援する日本」の内閣総理大臣表彰受賞の報告等がありました。第二号議案は収支計算表、貸借対照表、財産目録に関し榎本陽子事務局長より報告がありました。第三号議案も大日向代表理事より従前事業の更なる充実を目指すとの説明があり、第四号議案は事業計画に則った予算の公開でした。当法人は内外の経済変化にも拘らず順調に事業展開を致しており、内部監査機能の充実に努め、主体的に問題を把握し改善していく体制を強化するため、本年初頭より松村監事のもとで四半期に一度の監査をお願いしておりますことも報告させて頂きます。

なお、新しく昨年七月一日付で理事をお引き受けいただきました松下俱子先生、大前由子先生、岡健先生のプロフィールを簡単に紹介致します。松下先生は恵泉女子学園の学園長の職にあり、独立行政法人 国立青少年教育振興機構の前理事長でいらっしゃいます。また大前先生は、弁護士法人 曾我・瓜生・糸賀法律事務所 の弁護士として活躍される一方、四人のお子

様の育児真っ只中とのこと。当日は欠席なさいませんが岡 健先生は、大妻女子大学の准教授で、保育学会理事としても活躍でいらっしゃいます。

このような素晴らしい先生方のお力添えを頂くことができ、大変に心強く心より感謝致しております。私どもは社会から信頼されるNPOとして、今後とも事業の継続と発展に鋭意尽くして参りますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



総会の様子

【バックアップ研修開講予定】

〈港区〉

八月二十一日(金)

九時三十分から十二時三十分

内容 普通救命講習会

講師 赤坂消防署署員

九月十五日(火) 十四時から十五時三十分

内容 活動報告&話し合い

講師 大日向雅美(本法人代表理事・子育てひろば「あい・ぽー」と施設長)

※ 会場はすべて

子育てひろば「あい・ぽー」と二階ホール

〈浦安市〉

《一般コース》

十月七日(水) 十三時から十四時三十分(三級IV期正対象)・十四時四十五分から十六時十五分(二級・三級I・II・III期正対象)

内容 活動状況報告及び課題解決に向けた助言

講師 大日向雅美(本法人代表理事・子育てひろば「あい・ぽー」と施設長)

十一月四日(水) 十五時から十六時三十分

内容 発達障害

講師 三隅揮見子(横浜市リハビリテーションセンター発達支援部療育係長)

《児童育成クラブ指導員コース》

十月六日(火) 十時から十一時三十分

内容 活動状況報告及び課題解決に向けた助言

講師 野中賢治(財団法人児童健全育成推進財団企画調査室長)

※会場はすべて浦安市文化会館三階会議室

〈千代田区〉

十月五日(月) 十三時三十分から十五時

内容 活動状況報告及び課題解決に向けた助言

講師 大日向雅美(本法人代表理事・子育てひろば「あい・ぽー」と施設長)

十一月十八日(水) 十五時から十六時三十分

内容 発達障害

講師 三隅揮見子(横浜市リハビリテーションセンター発達支援部療育係長)

※ 会場はすべて西神田児童センターです。

【養成講座開講情報】

〈港区〉

「子育て・家族支援者養成講座二級VI期」を開講します。全講座を修了し、支援者として認定を受けた人は、港区派遣型一時保育・育児支援家庭訪問事業の支援会員として、港区内の支援を必要としている子育て家庭に出向

いて保育者として有償で活動が出来ます。開講日 二〇〇九年十月から毎週金曜日で開講予定です。

講義と実習を含む三十コマ

会場 子育てひろば「あい・ぽー」と

【問合せ先】

子育てひろば「あい・ぽー」と 池田まで

電話 〇三(五七八六) 三二五〇

〈浦安市〉

「浦安市子育て・家族支援者養成講座(二級)第三期」を開講します。

開講日 二〇〇九年九月二十八日から十二月七日の、原則毎週月曜日で開講。講

義と見学を含む三十コマ

会場 浦安市文化会館三階会議室

【問合せ先】

浦安市こども部こども家庭科子育て係

電話 〇四七(三五一一) 一一一一(代表)

〈千代田区〉

「千代田区子育て・家族支援者養成講座(二級)第二期」を開講します。

開講日 二〇〇九年九月二十五日から十二月四日の毎週金曜日に開講。

講義と実習・見学を含む三十コマ

会場 千代田区役所会議室あるいは西神田児童センター小ホール

【問合せ先】

NPO法人あい・ぽーとステーション子育て・家族支援者養成講座事務局 榎本・原口

まで 電話 〇三(六六五七) 八五三九



Illustrated by GEN

に不登校、引きこもりをくり返してきた子どもには自分の子育ては間違っていたのではないかと、母親失格ではないかなど自分を責めていた頃ある相談員の方に出会いました。いつも私の話に耳を傾け、穏やかに話をされ、私の今までの子育てを否定することもなく、家庭や子育て、仕事の愚痴までも全て聴いてくださり、私はいつも話をしてよかったですと感じていた事を思い出します。それが傾聴だったのではないかと思います。何が正しいのか答は知りたいたけれど、それよりも話を聴いてもらいたかったのだと思います。私も「傾聴」という言葉を心に留め、子育ての悩みを抱えている親に寄り添い謙虚さを忘れず、信頼関係を築きながら少しでも役に立てたらと思いました。更に子育ては「孤育て」であると聴きました。隣近所の付き合いが希薄で、初めての子育てでは不安でいっぱい母親が「孤育て」に陥っている中で、もつと地域の中で助けあひながら支え支えられたら、どんなに子育てが楽しくゆとりを持つことができるのではないかと思います。私も今まで様々な方に支えられてきました。今回の講座を受講して、まだまだ未熟な私ですが、これから少しでも子育てに悩む親・家族のお役に立てればと思います。

高浜市子育て・家族支援者養成講座受講生
神谷 美紀子

私は三年前前から保育園内の一時的保育の仕事に携わっています。今回、子育て家族支援者養成の講座があることを知り、最近の子育て事情や、専門的な新しい知識やテクニックを勉強したいと思い参加させて頂きました。

結婚前は幼稚園に勤め、二人の子供も幼稚園に通わせていたので、保育園で働き始めた頃は、保育園と幼稚園との環境の違いに戸惑いました。それまでは、子供は母親が手をかけて育てて当たり前という考えでした。いわゆる「三歳児神話」を信じていたのです。でも今では、色々な人がいて環境が違い、考え方も、働き方も違っています。そのため、母親がずっと世話できない子供がいてそれを社会がサポートすることが必要ではないかと思いはじめました。

第一日目の講座で「世の中には子育て支援をする親が甘やかされ、もつと子育てをしな

くなるのではないかと考える人がいて、子育て支援の趣旨が誤解されている」という言葉を大日向先生から聞いた時はとても驚きました。一時的保育には、生活のために子どもを預ける人もいれば、世話をしたくないから預ける人もいる様に思えて、ずっと気になっている事だったので、先生の色々な話の中で「子供と少しの間離れることで、子供にやさしくなれる」というお母さんの事を聞き、子育て支援をしていく事にパワーをもらいました。たくさんの具体的な事例が聞けたことは、とても有意義でした。

また、とても印象に残った言葉が「傾聴」でした。保護者とのお話の中で、時々、専門家として何かアドバイスをしなればいけないのではないかと焦りにも似た気持ちがあったのですが、子育てで家族支援をするには、教育したり説教したりすることではなく、支え支えられてお互いを教えることができました。

これからは相手の話を中断させることなくよく聴き、言葉の裏に隠れている本当の気持ちを引き出すことができました。と思います。



調理実習後の試食の様子

浦安市

浦安市子育てケアマネージャー 熱田 正美

子育て家族支援の養成講座終了後、二〇〇八年三月浦安市子育てケアマネージャーとしてあいはらより認定を頂きました。同年六月から浦安市による子育て家族が抱えるさまざまな問題解決に向けワンストップサービスとしての子育て相談室をオープン、私達は相談員として十八歳未満の児童を持つ家族または児童本人のあらゆる問題・悩みにも対応し、電話相談と直接相談を受けています。その中で私達の役割はさまざまな分野に及ぶ相談内容を、行政が行

う専門の相談機関や施設を案内すると共に時には聞き役になり専門機関へつなぐ前に、相手の心に寄り添い希望を見出し前向きに取り組む気持ちになれるような心配りも大切にしていきます。そしてまた子育て相談室とは別に今年四月から子ども部の入口で「子育て総合窓口」の取り組みをスタートしました。子育てに関する手続に来庁された方への案内と直接の相談にも応じます。単なる預け先の案内もあり、人生に関わる重大なお悩みもやはり幅広い対応が望まれますが、どんなケースにも憶せず対応できます事は市の取り組みを始め、預かりや「ひろば」などで活動している支援者、専門機関への大きな信頼があるからこそ、私達はあくまでも、子育てコンシェルジュ、一番身近にある地域の力こそが子育てを支える大きな力となっていると感じます。

二級お助けねつと代表 小林 世紀子

二〇〇六年九月十五日、浦安市主催の「子育て家族支援者」の三級受講募集があった。少子高齢化、核家族や共働き家庭の増加に伴い、子どもや家庭を取り巻く環境が多様化し、子育て支援の体制づくりの一環として、地域の子育て力の向上に役立てる人材育成を目標に実施すると聞いた。

三カ月間、週一回十時〜十五時四十五分まで三コマの講義でレポート提出は厳しかった。

二〇〇七年三級修了生対象に二級講座が始まり、更に幅広いカリキュラムで三級と同じく一度たりともレポート未提出は許されなかった。

この関門をくぐり抜けた私達は、仲間意識が芽生え、お疲れ様会を何回かしているうちに、お知恵拝借や、人手の足りない時の応援など声掛け合っ、お互い助け合った。そ



こんべいとひろばの様子

れで、自然発生的に「二級お助けねつ」という会が出来上がった。会合を重ねるうちに、「私達で何かをしようよ」という声があがり、「じゃー広場を」になり、時間外保母、絵本の読み聞かせのフロ、保育専門家など色々な人達の集まりなので、色々な色のある「こんべいとひろば」という名前が生まれ、修了生同士の助け合いから、地域への「子育て支援」へと活動を広げることが出来た。四月、五月開催の「こんべいとひろば」には予想以上の親子さんが来て下さり、アンケートからも喜びの声が伝わって来て、主催する私達も、期待に応えようと知恵をしぼっています。何よりもうれしいのは、一級生・二期生結束していることです。

浦安市児童育成クラブ指導員 大塚 樹理

私は児童育成クラブの指導員として、こども達とかかわってきました。指導員として働き始めた頃、「どうして子ども達はこんなに怒られてるんだろ?」と、とても不思議でした。まだ、子ども達と信頼関係が築けていなかったこともあり、凄く嫌なことを言われたことがありました。子ども達はきつと、自分たちのいる環境に新しい人が入ってくることに抵抗感があったから、大人に対して試すようなことをしたんじゃないかと、ふと思っただけです。大人になつてしまつと、常識だとか世間を気にしすぎてしまつ。それによつて大人とは全く違う子ども達の世界を理解するには、とても時間がかかってしまいます。大人の常識の上で子どもを叱ることも必要なのかもしれないませんが、今回この講座を受けて感じたのは、お互いのことをよく知った上で、子どもの世界や想いを大人が受け入れてあげることが大切なんだと思いました。そして、子ども達自身が「自分で考え、行動ができるような環境作り」と「遊びを通して人間関係や想像力が身に付き、子どもの可能性を引き出せるような環境作り」を私達は日々の保育の中で試行錯誤しながら、子ども達とかかわらなければならぬことを学びました。今回学んだことを活かして、これから子ども達たちの目線に立ち、様々な経験ができるような保育を考え、子育ての悩みを保護者の方々と共有し、お互いが成長し合える関係を築いていきたいです。

【支援者の皆様からの

メッセージ】

各地の子育て・家族支援者の皆さまからメッセージをいただきました。

港区

港区子育て・家族支援者 中沢 美千代

「一、二、三、四……十六、十七歩」先週は二〜三歩しか歩けなかったAちゃんが今日は十七歩も歩けるようになったのです。何回も歩いて見せて満足そうです。つい数ヶ月前までは寝ているだけの赤ちゃんでしたが、それがアツという間に歩けるようになったのです。本当に子ども成長は目を見張るばかりです。こんなすばらしい瞬間を、日々、目にするのができ支援者冥利につきます。また、幼稚園に入り夏休みなどに久し振りに一時保育室「あおば」を訪れた子どもが、背も伸びてすっかりお兄さん、お姉さんらしくなっているのを見て、その成長した姿に驚き感激することもあります。一時保育のため毎日同じ子どもが来るわけではありませんが、二度、三度と会っているうちに、とても身近な子どもに思えるようになります。しばらく顔を見ないでいると「どうしているのかな？ 元気かな？」と少し心配してしまいます。

自分自身の子育てを終えて、小さい子どもが周りからいなくなつていぶん長い時間がたちましたが、今また、久し振りに沢山の子どもたちに囲まれて、毎日が新しい発見と経験です。仕事をしながら子育てをし、余暇を上手につかって生活を楽しんでいる若いママ達、子育てに協力的なパパ達の姿に感心しております。

「あいぼー」といっ
会い、支援
者となつて



一時保育「あおば」の様子

活動すること三年余り、こんなに永い間「あいぼー」とに接するとは思っておりませんでした。微力ながら自分がお役にたつていると思うと、とても嬉しくやりがいを感じております。人生の終盤に入つてから、こんなにも貴重な経験ができる機会に恵まれたことに感謝しております。

これからもスタッフの皆様と協力して、子ども達の安全第一を心掛け、「子どもを預けて安心」と信頼して頂けるよう努力して参りたいと考えております。

港区子育て・家族支援者 佐藤 朋子

「あいぼー」で子育て支援の勉強をしてみよう。そう思ったのは、私自身ふたこの息子達を育てるにあたり、本当に多くの方々の手助けをいただいたからでした。子ども達がお腹にいる頃から不安でした。元気に生まれてくるのだろうか。上手く育てていけるのだろうか。何もかもが初めてのことなのです。「大丈夫かな」と私。「なんとかなるでしょう」と夫。こんな頼りないパパとママからの出発でした。

そんな中で一番心強かったのは、やっぱり子育てのご経験のある方々からの手助けでした。

「あなたも昔、子どもだったことがあるのだから、その時のことをイメージして関わつたら楽しいわよ」。その一言で、後の子育てが少し楽になりました。「少しくたびれているみたいだから気晴らししていらっしやい」。その一言で、乗り切れた瞬間がありました。

「一番良い時ね」。その一言で、子ども達との今を大切にしよう。と勇気を頂きました。

自分の子育てを今改めて振り返ってみますと十五年の歳月子ども達と関わつていく中で、多くの方々に支えられながら、少しずつ少しずつ親になっていくのだな、と感じています。

派遣型保育では、日々新しいご家族との出会いの連続です。頑張つていらつしやるお母さま達から、学ぶことはあります。そして何より、子ども達自身が一生懸命日々生きている姿に感動をいっしょにいただきます。初めて出かけていく時は、大日向先生の言葉をいつも思い出します。

「子ども達は一つ一つ違うコップを持っているのかもしれない。ちよびりで満杯になる子どももあれば、もつともつと注いで欲しい子どもも

いるだろうと思います」。

今度出会うのはどんなコップを持ったお友達だろう。そう思うととてもワクワクしてきます。これからも、おひとりおひとりの出会いを大切に、楽しい一時保育を心がけていきたいと思っています。

千代田区

千代田区子育て・家族支援者養成講座受講生

向山 美恵子

振り返れば、私自身の子育ては、総じてとても楽しいものでした。終わつてみてはじめて「子どもを好きになつている自分を発見しました。何年前かに保育園で保育補助をさせていただいたことがありました。大変なのですが、毎日が新鮮で、子ども達がとてもかわいくて、あつという間に時が過ぎていきました。ところが少しすると、保育に関して何も資格のない、経験も知識もない自分という存在に気がつき、そんな私だけが子育て経験があり、子どもが好きというだけでこのままのお仕事を続けていてよいのだろうかと思うようになりました。また、実際に限界も感じていたのです。そんな時、「この「子育て・家族支援者養成講座」を区報で知りました。大変そうでしたが、これだ！と瞬時に思いました。自分が知りたいと思つていた内容が網羅されており、講義が始まってみますと、期待通りのものでした。まだ講座の途中ではありますが、共通して言えることは、子育て支援とは、「傾聴」寄り添い、見守り、共感してあげること、子どもを生んで育てることは本当に楽しいこと、子育てをしていてよかったと心から思つてもらえるように応援してあげることです。子育ては未来の社会を担う人を育成するといふ、この世で一番大切な仕事ではないでしょうか。子育てをする事によって、親も子どもも豊かに成長でき、住みやすい社会が形成されていくものと信じております。まだ講座半ばではありますが、受講することにより自分が成長し、ほんの少しでもお手伝いをさせていただけたらと思っております。

自分の子育て経験だけで、子ども達と接してよいものか……ずっと疑問に思つていました。でもこの講座を受けるようになり、この貴重な経験は

実際誇つていいもので、社会の中にもつと活かせる場があつて良いのではないかと思つようになりました。この講座開講の意味がここにあると思えます。

さて肝心なこれからの活動ですが、受講中というところもあり、あまり思い浮かばないのですが、私も地域の一人として子育て支援をさせていただけたらと思つてます。支えるということは、実は自分も支えられているのだということ、お互い寄り添えあえたら理想的だなと思つてます。子育て支援がいつか、自分の大切な生きがいにまでなれたら

こんなふうにうれしいことはありません。自分の経験を通して「子育ては楽しい」ことを皆さんに実感していただけたらうれしい……私の思いは、ただそれだけです。



講座中のひとコマ

高浜市

高浜市子育て・家族支援者養成講座受講生

鈴木和子

私は今回初めて「子育て・家族支援者」養成講座を受講しました。今まで何年か子育て支援に携わつてきましたが、育児の専門家ではないので、自分の子育ての経験や体験を元に活動してきましたが、果たして今それだけで良いのだろうか、自分の今までの支援はどうだったのだろうか、振り返りながら、資質向上のために受講しました。大日向先生の講義を聴いても印象に残つたのは、子育て支援は「傾聴」からと言われたことです。「傾聴」と言われ、言葉では理解しながら実際にそれができているかと問われれば、一方的に喋つたり、情報提供だけしてきたのではないかと思つとも難しいことだと思つた。私も子育てに悩み苦しんでいた頃があり、特